

氏名	上田 正太
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	第6052号
学位授与年月日	平成26年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当者
学位論文名	特別養護老人ホームの生活相談員が行うソーシャルワークの特性に関する研究 ーケアワークとの接点からの分析ー (The Study of Characteristics of Social Work Practice Performed by Residential Social Workers in Nursing Homes : Analysis of the Interfaces between Social Work and Care Work)
論文審査委員	主査教授 岡田 進一 副査教授 所 道彦 副査教授 岩間 伸之

論文内容の要旨

申請論文は、特別養護老人ホームに所属する生活相談員が行うソーシャルワーク実践に焦点をあて、その実践に関する構造をケアワークとの接点から分析を行い、また、その実践を向上させる関連要因についての分析も行っている。本論文は、序章ならびに第1章から第5章、終章で構成されている。序章では、研究背景ならびに問題の所在についての整理を行い、研究目的の設定が行われている。第1章では、生活相談員が行っている実践内容に関する文献研究を行い、実践に関する体系化の必要性を指摘している。第2章では、生活相談員が行う施設型ソーシャルワークの実践構造を明らかにするため、確証的因子分析を行っている。その結果、「苦情等相談対応実践」「入所入院対応実践」「計画評価実践」「連携調整実践」「施設運営実践」の5つの実践領域が明らかとなった。第3章では、生活相談員が行う実践充実型ケアワークの実践構造を明らかにするため、確証的因子分析を行っている。その結果、「身体介護補助実践」「生活環境調整実践」「社会支援実践」「日常情緒支援実践」の4つの実践領域が明らかとなった。第4章では、生活相談員が行う施設型ソーシャルワークと実践充実型ケアワークとの関連性を検証するとともに、それぞれの実践の遂行状況と基本属性との関連性についても検討が加えられている。分析の結果、施設型ソーシャルワークと実践充実型ケアワークとの間に強い相関関係が見られた。基本属性に関する分析では、役職の有無や資格の有無が実践の向上において重要な要因であることが明らかにされた。また、利用者定員が少数である施設は、実践内容が充実していることも明らかとなった。第5章では、施設型ソーシャルワークおよび実践充実型ケアワークの実践状況と職場環境との関連性の検討がなされている。分析の結果、職場内外の研修体制が充実している職場において、施設型ソーシャルワークおよび実践充実型ケアワークの実践が向上している状況にあることが示された。終章では、各章の要約、および、生活指導員が行う実践を向上させるための方策についての提言がなされている。

論文審査の結果の要旨

申請論文では、特別養護老人ホームの生活相談員の業務内容に関するさまざまな議論が整理され、生活相談員が行うソーシャルワークとは何かに着目し、施設におけるケアワークとの接点から施設型ソーシャルワークの構造を分析するとともに、その実践を向上させる関連要因についても明らかにされている。また、分析結果を踏まえて、特別養護老人ホームの生活相談員が提供するサービスの質を向上させるための方策についても言及がなされている。具体的には、生活相談員に対する適切かつ継続的な研修体制の必要性、特別養護老人ホームにおける相談援助サービス内容の体系化とその情報開示などを提言としてあげている。本研究で得られた知見は、今後の施設型ソーシャルワーク実践の向上に役立つ具体的な実践的・政策的含意を示すものであり、本論文でなされた提言は示唆に富んだ提言である。これらの点で本論文は高く評価することができる。慎重に審査を行った結果、本審査委員会は申請論文が博士(学術)の学位を授与するに値するものであると認めた。